

社会福祉法人はりま福祉会 せいりょう園
2025年度事業計画書

はりま福祉会は、40周年を迎えます。地域住民としっかりとした信頼関係を築いてきた実績を大切にして、2025年度事業に取り組んでまいります。地域貢献事業として子ども食堂や認知症カフェを充実させていきます。人材育成に取り組み多くのスタッフが働き甲斐のある職場を目指します。職場環境をより良くする取り組みをします。古くなった外壁の塗り替えなど地域の方がより多くきていただけるように整理整頓、挨拶、組織改革など一つ一つ取り組みます。多くの利用者様に喜んでいただけるサービスを展開していきますので、はりま福祉会の事業運営にご理解をよろしくお願いいたします。

基 本 理 念

日の出医療福祉グループ理念である「お客様のよろこび」「社員のよろこび」「地域のよろこび」を台として運営します。

団塊の世代が75歳となる今、介護サービスの現場では人材不足となっています。安心して働ける環境づくりを目指し既存の考えにとらわれず改革をしていきたいと考えています。

社会福祉事業を取り巻く環境は、収益確保・人材確保その他難しい局面に立たされています。地域から選ばれる施設づくりに向けて、要介護や認知症のお年寄りを大切にし、利用者様の満足のいくサービスづくりを目指して事業展開します。

2025年度業務指針

① サービスの質の確保

ケアについて、原点に立ち返り、利用者様、家族様、一人一人に対し思いやりの心を持ち、健康で安心して過ごすことができる環境をつくります。認知症研修会、技術研修会、外部研修参加の機会を増やすことで、ケアの質を高め、サービスの質の確保、地域から選ばれる施設、人が集まる魅力ある施設を目指し、最善を尽くします。

- ・特養での体制変更を実施、介護、看護、相談部門を分化し、育成・指導部署として、システムを再構築する。
- ・認知症研修(2か月1回)・技術研修(月1回)・事例検討・外部研修への参加、伝達講習実施にてケアの質を高める。
- ・次世代リーダー層、指導担当者研修(毎月1回)

② 人財確保・育成・定着・職場環境改善

魅力ある職場とは何か常に考え、ライフスタイルに合わせた多様な働き方ができる組織体制作りに取り組みます。積極的な広報活動にて採用活動を実施し、人財確保に取り組みます。運営の中心を担うことのできる人財育成、外国人人財育成、職場環境改善に注力し、人財の定着に取り組みます。職員同士の交流機会を持ち、互いに思いやり、協力する心を持ち、楽しみを持ち働くことができる、働き甲斐のある職場を目指し、日々行動します。

[人財確保]

- ・継続的な就職相談会の開催(毎月開催/役職者にて担当)
- ・SNS の積極的な活用、発信頻度を高める。、(担当職員配置)
- ・近隣への募集ポスティング(高齢者、短時間勤務者採用)
- ・業務の細分化を行い、短時間勤務者の獲得
- ・人財獲得の広報ツール作成
- ・採用に向け、説明会への参加
- ・外国人採用、育成を充実
- ・実習生受入の再開(社会福祉士)
- ・職員紹介料の増額検討

[育成・定着・職場環境]

- ・入職時オリエンテーションの変更、入職時の育成期間、方法を見直し、細目に面談を実施。
- ・毎月研修を実施、指導担当者の育成
- ・認知症研修、技術研修の実施
- ・部署を横断したプロジェクトチーム体制での取り組みを実施
- ・プロジェクトチーム体制、職員参加型での職場改善検討
- ・定期的な職員交流会の実施(全体・各事業)
- ・ショート夜勤体制導入をすすめる。(21時から7時)
- ・選択的週休3日制検討、夜勤専従正職員等あらゆる可能性を検討する。
- ・外国人人財の4名採用をすすめ、育成を充実。

③ 収益向上・改善

地域での生活を支えることができるよう、人員体制を整え、在宅事業の強化を図ります。管理者、役職者、次世代育成対象職員を含め、運営状況、業績、経費節減意識を持つことを会議にとどまらず、日々の情報共有にて意識付を徹底し、収益向上に取り組みます。各事業の加算取得をすすめ、収益構造をあらゆる面から見直し、収益向上できる事業体制を目指し取り組みます。

- ・総合相談窓口の人員体制を整え、相談援助職を中心に広報活動、在宅事業の稼働向上に注力します。
- ・管理役職者、リーダー層に対し、業績管理意識を日々共有し、経費節減、収益向上を図ります。
- ・広報ツール、パンフレット作製し、継続的な広報実施。
- ・SNS 媒体を積極的に活用し、サービスの情報発信を行います。
- ・感染対策、日々の健康管理を徹底、スムーズな入居にて空き床を減らし稼働率維持、向上を図ります。
- ・各事業での加算の確実な取得をすすめ収益向上を図ります。
- ・下期でのデイ日曜日稼働、GH 通所稼働に向け取り組みます。

④ 地域貢献事業の活性化

地域の相談窓口として、世代を超えた、地域課題に取り組み、新たな地域貢献事業を企画、運営します。地域サポート施設として、地域における多様なサポートの道を探り、地域の様々な情報の発信・交換の場、居場所づくりを行い、地域との信頼関係構築に取り組みます。

- ・在宅介護支援センターを総合窓口とし、相談職員を配置、地域貢献事業を企画、運営をすすめます。
- ・世代を超えた地域の情報発信、交換、居場所づくりを行い、地域ネットワークの一翼を担うことができるよう取り組みます。
- ・認知症カフェ、こども食堂の充実、継続
- ・地域での講演活動、小中学校行事協力
- ・学生向けフリースペースの開催
- ・無料こども塾の検討

(2) 2025年度個別事業計画

- 1 ユニット型特別養護老人ホームせいりょう園(定員 30 室)
- 2 地域密着型特別養護老人ホームせいりょう園(定員 20 室)

基本ケアを見直し、健康で安全に過ごせる環境を整え、研修機会を増やし、ケアの質を高め、サービスの質の確保を徹底します。稼働率向上に向け、日々の健康管理、事故や体調変化の早期発見、感染症対策を徹底し、空床を減らします。相談窓口を強化し、待機状況の整理を行いスムーズな入退居に努め、空床を減らします。施設ケアマネジャーを中心とし医療、介護の連携を密にし、看取り加算を確実に取得、認知症対応力を高め、認知症ケア加算の取得に向け準備を進め、更なる収益向上に取り組みます。

栄養マネジメント強化加算、療養食加算算定に向け、準備をすすめます。

令和7年度目標値（平均稼働率 99%・平均介護度 4.05・16,290 万）
令和7年度目標値（平均稼働率 98%・平均介護度 4.13・9,200 万）

3 指定短期入所生活介護事業（ショートステイ 20 室）

基本ケアを見直し、安心して過ごせる環境、居宅生活の延長として過ごせる空間づくりに努めます。住み慣れた在宅生活を支える事業所として、安心して定期的に利用していただけるよう、併設特養と連携し、健康管理・感染症対策・蔓延防止を徹底します。相談窓口での対応力を高め、家族様、居宅介護支援事業所の連携を密に行うことで信頼を深め、空床状況を明確にし、タイムリーに発信し、緊急受け入れ等、対応力を高め、稼働率向上に取り組めます。

令和7年度目標値（平均稼働率 94.4%・平均介護度 2.7・7,900 万）

4 軽費老人ホーム・ケアハウスせいりょう園（30 室）

家族様、居宅介護事業ケアマネジャーへの情報共有を密にし、信頼関係をより深め、安心して過ごせる環境を作ります。日々の関わりから、変化の早期発見、対応、健康管理に努め、サービス提案ができる、相談員対応力を高めます。スムーズな入退居を常に意識し、病院、地域包括支援センター、関係機関への広報活動を実施し、稼働率向上に取り組めます。

令和7年度目標値（平均稼働率 98.2%・平均介護度 1.7・4,460 万）

5 指定通所介護事業（デイサービス：月～金 20 人・土日 10 人）

個別ケアを重視した介護サービスの質の向上、職員研修を毎月実施、外部研修参加機会を増やし、ケアの質向上を図ります。利用目的を明確にした特色づくりに取り組み、短時間利用から長時間利用への切り替え、外部利用者の獲得にて利用増を目指します。ショートステイ、ヘルパーステーションとも連携を図り、切れ目ないサービス対応、連携した広報活動を実施し、人員体制を整え、日曜日稼働を目指し、稼働率向上に取り組めます。

令和7年度目標値（平均稼働率 80.9%・平均介護度 2.6・4,250 万）

6 居宅介護等事業の運営

- ① 指定訪問介護事業（ホームヘルパーステーション）
- ② 指定地域密着型定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業
- ③ 重度障害

施設敷地内の対応にとどまらず、地域での在宅生活を支えるため、各種機関と密に連携し、スムーズな対応ができる体制を整えます。24 時間を通し、ケアの見直し、きめ細やかなサービス提供体制、業務の変更に取り組みます。サ高住での入浴対応、朝夕の訪問対応を重点に、短期間利用、緊急的利用にも対応できる体制を整えます。地域での定期巡回利用者獲得に注力し、広報ツールを作成し、地域への広報活動を積極的に行い、地域での利用者獲得を目指します。

令和 7 年度目標値・訪問介護
(平均登録人数 21.6 名・平均介護度 1.3・900 万)
(新規利用：地域利用者 4 名 施設内利用者 3 名)

令和 7 年度目標値・定期巡回
(平均登録人数 26 名・平均介護度 2.7・4,470 万)
(新規利用：地域利用者 5 名 施設内利用者 4 名)

7 指定認知症対応型共同生活介護事業（グループホーム）

グループホーム：3 ユニット（22 名）

グループホームまどか：2 ユニット（15 名）

認知症ケアについて、原点に戻り見直し、毎月の認知症研修、技術研修を実施し、職員の対応力向上に努めます。人員確保、勤務体制の変更、職員面談の機会を増やし、ストレス緩和を図り、健康で安心して過ごすことができる環境を作ります。2 つのグループホームには、ご夫婦で入居できる事を周知し、定員 3 人の共用型デイサービスの稼働に向け、人員、業務体制作りをすすめていきます。看取り加算、認知症専門ケア加算、栄養管理加算の算定に向け準備し、収益向上に取り組みます。

令和 7 年度目標値：グループホーム
(平均稼働率 98.6%・平均介護度 3.0・11,380 万)
令和 7 年度目標値：グループホームまどか
(平均稼働率 98.1%・平均介護度 3.0・7,740 万)

8 サ高住「リバティかこがわ」「自愛の家さくら」の運営

ヘルパーステーション、小規模多機能型居宅介護、デイサービスの利用により、24時間見守りのある環境で安心して過ごすことができる清潔な空間づくりに取り組みます。相談員の日々の業務を見直し、変化の早期発見、対応、状況把握に努め、重度化対応、サービス提案ができる対応力を高めます。関係機関への広報活動を積極的に実施し、スムーズな入退居を意識し稼働率向上に取り組みます。

令和7年度目標値：リバティかこがわ
(平均稼働率 96%・平均介護度 2.0・平均登録人数 19.0 人 3,200 万)
令和7年度目標値：自愛の家さくら
(平均稼働率 99%・平均介護度 2.3・平均登録人数 23.7 人 3,800 万)

9 グループハウス「岸本邸」の運営

高齢者、障がい者、低所得者、一人親世帯など住宅確保が困難な方が安心して暮らせる住まいを確保できるよう、支援センターを中心に迅速な相談、入居対応に努めます。プライバシーを保ちながら、自立した共同生活を営み、地域住民の一人として暮らすことができるよう、必要に応じた見守りや相談ができる体制を確保します。広報ツール作成し、継続した広報活動に取り組みます。

令和7年度目標値(平均稼働率 77%・平均登録人数 3 名・120 万)

10 鍼灸マッサージ治療センターの運営

マッサージや指圧・鍼灸は、生物学的な治療効果と同時に、人の手が触れる感覚が他者への信頼感や安心感を生み、心地良さや安息感を与える優れた技術です。介護の原点にも通じる高度な技術を入居するお年寄りに提供します。

11 せいりょう園喫茶ルーム『ラヴィック』の運営

喫茶ルーム、令和6年3月31日付、休業中。
支援センターを中心に、地域貢献事業のスペースとして活用。

1 2 せいりょう園老人介護支援センターの運営

総合窓口として地域からの相談を受け、人、地域、学校、行政など、世代や職種を超えて繋がり、地域貢献事業を企画、運営します。地域支援ネットワークの一翼を担うことができるようにします。また、リバティかこがわ1階をオープンスペースとして活用し、世代を超えた地域の様々な情報発信・交換の場、居場所づくりを行い、気軽に立ち寄り、緩やかに繋がることのできる居心地の良い場所として、子ども、学生、大人にも認知され、福祉やせいりょう園が身近なものとなるよう取り組みます。

令和7年度目標

- ・認知症カフェ・こども食堂の充実、継続
- ・学生向けフリースペース開催
- ・地域での講演活動、小中学校行事協力
- ・無料こども塾の検討

1 3 小規模多機能型居宅介護事業の運営

利用者様、地域から信頼されるサービス、安心して在宅で過ごせるサービス作りをすすめます。人員確保、勤務体制を整え、6月に定員25名から29名へ変更をすすめ、看護職員配置加算、認知症加算、独自加算算定に取り組み、経費節減の意識を高め、収益向上を目指します。サ高住併用にて24時間見守りのあるサービスとして、広報活動を実施し利用者獲得に努めます。

令和7年度目標値

(平均稼働率 92.2%・平均介護度 2.49・平均登録人数 26名・7,100万)